

北海道地区自然災害科学資料センター活動報告メモ

(1) 予算の執行

配当額 2,776,000円 [付属施設経費] を通常活動経費および本センター報告出版等にあてる。

(2) 一般活動 [地区幹事会・センター運営委員会 (合同)、研究懇談会など]

第1回：平成2年8月10日

資料センター運営委員会：

- 1) 平成元年度活動報告
- 2) 平成元年度会計報告
- 3) 平成2年度の活動内容 (現段階では予算が未確定)
- 4) センター報告 Vol. 5 の発刊

第2回：平成2年12月18日

資料センター運営委員会：

- 1) 元センター長酒井良男先生のご逝去について
- 2) 平成2年度1回災害情報委員会 (京都) 報告
- 3) 平成2年度予算および事業計画の審議
- 4) 災害データベースの構築について
- 5) センター報告 Vol. 6 の原稿募集
- 6) 奨学寄付金 (酒井章子氏) について

(3) 研究教育活動

- 1) 自然災害資料データベースの構築：平成2年度文部省研究成果公開促進費の下で、全国6地区で自然災害資料データベースの構築を行っている (代表者：村本嘉雄・京大防災研教授)。北海道地区では、環境科学研究科・加賀谷誠一助教授が分担者としてデータベースの構築を行っている。
- 2) 教養部・総合講義 (1学年後期) の実施：従前に引き続き、総合講義Ⅰ『災害の学際的研究』 (責任者：板倉忠興センター長) を以下の12名で担当、実施した。菊地勝弘 (理)、鏡味洋史 (工)、勝井義雄 (元理)、若濱五郎 (低温)、藤田睦博 (工)、板倉忠興 (工)、佐伯浩 (工)、小野有五 (環境)、土岐祥介 (工)、堀口郁夫 (農)、金田弘夫 (元文)、金子佳弘 (道庁)。
- 3) その他：総合班ワーキンググループとして、「地上および衛星リモートセンシングを用いた豪雪の検知・予測方法の検討」 (代表者：上田 博・北大理助教授) が行われた。また、重点領域研究(1)として、「都市の豪雪災害の予測と軽減防除に関する研究」 (代表者：菊地勝弘・北大理教授)、「自然災害の予測と防災力の総合的研究」 (代表者：同)、および「山地豪

雪災害の予測と防除、復旧対策に対する研究」(代表者：秋田谷英次・北大低温研教授)が行われた。

(4) 出版活動

- 1) 北海道地区自然災害科学資料センター報告、第6巻、特集：北海道における災害写真のスライドライブラリー (平成3. 3：本号)

(5) 地区総会：1991年3月1日、北大環境研講堂にて地区部会と合同で開催

- 1) 年次報告

- 2) 特別講演の実施

○太田 裕 (東大地震研教授)：今世紀の地震被害を概観して

— ボーダーレス災害科学への思い —

○若濱五郎 (北大低温研教授)：雪氷災害とわたし

- 3) 懇親会 (クラーク会館特別食堂)

(6) その他

- 1) 若濱五郎・前北海道地区部会長の任期満了に伴い、後任に北大理学部地球物理学科菊地勝弘教授が就任した (平成2年4月1日付)。
- 2) 資料センター運営委員会委員の一部に変更があった。新委員は次表の通りである。